

平成28年6月21日

環境局環境監視部

部長：井上雄祐、環境監視課長：佐々木恵子、
産業廃棄物対策課長：二宮正巳、担当係長：野田明

TEL：582-2175

北九州PCB廃棄物処理施設内での PCB汚染液の漏洩について

中間貯蔵・環境安全事業株式会社北九州事業所（若松区響町）より、同所の第2期処理施設の基幹物流倉庫内において一時保管していたドラム缶1缶から、処理工程で発生する木酢液等がパレットと呼ばれる漏れ防止機能を有した金属容器内に約5リットル漏洩していたこと（平成28年6月16日（木）午後5時頃に確認）、発見後、直ちに漏洩した液の回収・拭取りを実施するとともに、当該液の濃度分析を行った結果、高濃度のPCBが含まれていたこと（PCB濃度約9%）について報告がありましたので、お知らせします。

なお、これによるPCB等の施設外への漏洩や作業員への影響はありません。

これを受け、原因究明と今後の再発防止策を早急に報告するよう同社に対して指示しました。

（別添資料）

中間貯蔵・環境安全事業株式会社ホームページ公表資料

（本件に関する問い合わせ先）

中間貯蔵・環境安全事業株式会社北九州事業所
所長：安井 仁司、安全対策課長：渡辺 正基
電話：093-752-1188



Japan Environmental Storage & Safety Corporation

中間貯蔵・環境安全事業株式会社

News Release

平成28年6月21日

北九州PCB処理事業所2期施設で保管していたドラム缶からの廃液の漏洩について

平成28年6月16日、当社北九州PCB処理事業所2期施設内の自動倉庫で保管していたドラム缶からPCBを含む廃液が滲み出しているのを確認しました。

なお、ドラム缶は防液堤のあるパレットに保管していることから、廃液はパレット内に留まっており、外部への影響はありませんでした。また、廃液は速やかに回収しています。

1. 発生状況

現在、北九州PCB処理事業所では、トランス・コンデンサ処理設備に係る試運転を行っているところですが、6月16日、PCB廃棄物を保管する自動倉庫においてドラム缶により一時保管していた木酢液を主とする廃液の処理を行うために、当該ドラム缶を自動倉庫から呼び出したところ、ドラム缶1缶から廃液（約5リットル）が滲み出していることを確認しました。

その後、木酢液の濃度分析の結果、PCB濃度が約9%あることが本日判明しました。

なお、ドラム缶は防液堤のあるパレットに載せた上で自動倉庫に保管していることから、廃液はパレット内に留まっており、外部への影響はありませんでした。また、廃液は速やかに回収しています。

2. 今後の対応

このような事態を生じた原因を速やかに調査し、再発防止に努めてまいります。

3. これまでの経緯

- 6月16日 自動倉庫から呼び出したドラム缶1缶から廃液（約5リットル）が滲みだしていることを確認したので、速やかに回収作業を実施。
- 6月17日 北九州市に一報
- 6月21日 木酢液の濃度分析の結果、PCB濃度が約9%あることが判明したので、改めて北九州市に報告

<連絡先>

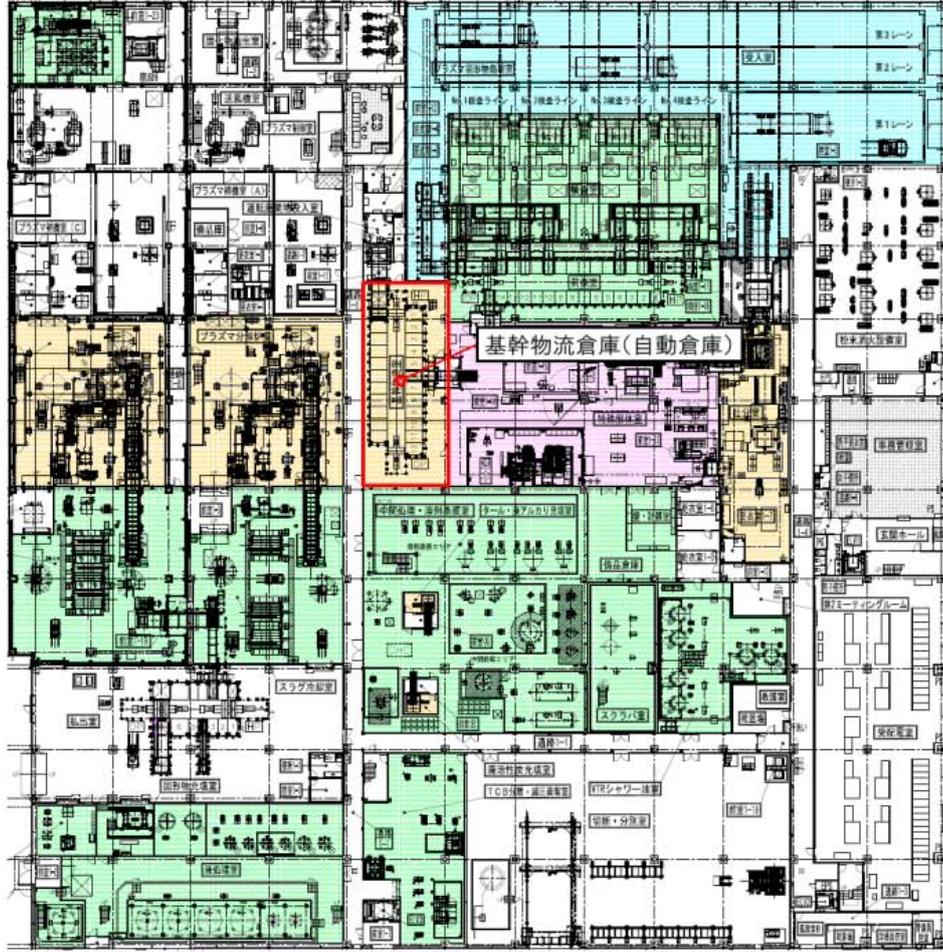
中間貯蔵・環境安全事業株式会社北九州PCB処理事業所

所長

安井 仁司 (093 - 752 - 1188)

安全対策課長

渡辺 正基 (同上)



＜北九州事業所 第2期施設＞



漏洩したドラム缶



吸着マットにて回収



漏れ防止機能を有したパレット